

始まる。

—新荒砥橋架替工事着工—

白鷹町民の悲願であった荒砥橋の架替工事が1月7日に着工。着工を祝うとともに工事の安全と早期完成を祈念し、新荒砥橋建設促進期成同盟会と白鷹町の主催による記念式典が1月30日、あゆーむで開催されました。

式典には各界関係者約180人が出席。新荒砥橋建設促進期成同盟会会長の佐藤町長は、「町民一丸となって

早期実現を要望してきて、ようやくこの度の工事着工に至った」「新荒砥橋の供用開始のあかつきには、町民の皆さん全員が、笑顔で渡り初めができるように切に願っています」とあいさつしました。また、白鷹中学校2年の小林咲葉さんと、四季の郷で割烹「ひさご」を経営する馬場修さんが、新荒砥橋架替に対し次のように意見発表をしました。



1. 県の担当者から工事概要が詳しく説明された
2. 荒砥橋を渡りながら「新」荒砥橋ができていく様子を確認できる

● 意見発表 ●



小林咲葉さん
(白鷹中2年)

私は毎日、友達とたくさん話をして、楽しく学校生活を送っていて、白鷹中学校に通学できる喜びを実感しています。そして今、東中学校区と西中学校区をつなぐ架け橋のような荒砥橋が、もっと広く、強固なものになることを考えると、私は学校生活がもっと楽しみにになります。

また、新しい荒砥橋は町の活性化にもつながっていくと思います。そして、白鷹町の東西をつなぐ橋が大きくなることでさらに一体感が生まれ、白鷹町はよりよい町になるでしょう。

白鷹町がさらに発展していけるように、私たちもまた、力になっていければと思います。

荒砥橋の架替工事に伴う道路拡張で、当店が四季の郷へ移転して7年になります。当時は、お客様の後押しや関係者の皆様の温かい対応もあり、この地での商売を決心しました。

さて、白鷹町は、宮城県気仙沼市と新潟県栃尾地区と親交が深く、今でも交流が続いておりますが、どちらも地震が多い地域です。そこで白鷹町が、新荒砥橋で気仙沼と栃尾をつなぐことにより、災害に強い強力な体制ができあがるのではないのでしょうか。

そういった意味でも、荒砥橋の架け替えには我が町の将来がかかっていると思います。そして、町の果たす役割もそこに見出されてくるのではないのでしょうか。



馬場 修さん
(割烹「ひさご」店主)

※意見発表の内容は、一部抜粋して掲載しております。

事業概要

荒砥橋は昭和32年の架橋から58年経過した老朽橋であり、幅員狭小のため、大型車同士のすれ違いが困難で、渋滞の原因になっています。加えて、冬期間には雪でさらに幅員が狭くなり、除雪時は片側交互通行を余儀なくされています。そのため、車道及び路肩を広く整備し、走行性及び安全性の向上を図り、また、歩道を両側に整備するものです。



(完成イメージ図)